

「福山義倉」の
文化的ネットワークとその継承
— 菅茶山と井伏鱒二を軸に —



▲『菅波信道一代記』前編巻1（茶山之間塾にて学文之図）

本シンポジウムは、2021年度に実施した創設記念シンポジウム「コロナ後の地域社会を考える：危機と社会・文化」の継続テーマとして、センター文化部門が担当し、その後の研究成果を踏まえて、全国的にも稀有な「互助システム」である「福山義倉」の設立経緯と活動の現代への継続の文化的背景について、調査研究の中間報告を行うものです。

「福山義倉」の時代背景として、寛政の改革における全国的な儒学教育の普及があります。そこには、菅茶山の廉塾の周辺に生じた人的ネットワークがあります。

それに加えて、中井竹山の大阪懐徳堂の教育活動とその周辺に生じた人的ネットワークについて取り上げます。そこには、備後のみならず、備中、および讃岐の儒学者、文人、及び豪農商層が含まれます。そして、「福山義倉」の実践の中心は豪農商層でした。彼らの社会認識と、それを踏まえての対応策について考察します。

さらに、廉塾終焉後の明治・大正期については、作家・井伏鱒二の生家周辺の興譲館を中心とする人的ネットワークとの関連性について考察を進めます。

これらの考察から、現代の地域社会の現状についての問題提起を目指します。

入場
無料

11.30 2024
SAT

時間 | 13:00-16:30 | 場所 | 学校法人 福山大学 社会連携推進センター9Fホール (JR福山駅北口すぐ前 徒歩2分)

基調講演

講演

『中井竹山の経世論』

湯浅 邦弘氏 (大阪大学 名誉教授)

研究報告

問題提起

『江戸後期備後圏域における地域運営と文化的ネットワーク』

青木 美保 (福山大学 教授)

報告 1

『菅茶山の福祉思想』

清水 洋子 (福山大学 准教授)

報告 2

『近世の朱子学受容』

市瀬 信子 (福山平成大学 教授)

報告 3

『近世庶民による「救恤」の絵画化と継承』

柳川 真由美 (福山大学 教授)

報告 4

『近世近代移行期の文化人の文学的ネットワーク』

前田 貞昭 (兵庫教育大学 名誉教授)

スケジュール

- 12:30 開場
- I 基調講演
- 13:00 講演 湯浅邦弘氏
- 14:00 休憩(10分)
- II 研究報告
- 14:10 問題提起 青木美保
- 14:30 研究報告1 清水洋子
- 14:55 研究報告2 市瀬信子
- 15:20 研究報告3 柳川真由美
- 15:45 研究報告4 前田貞昭
- 16:10 まとめ 青木美保
- 16:30 閉会

関連行事

11/29 ▶ 11/30

展示

『「福山義倉」と儒教教育—「備前邑久岩佐家旧蔵書」から』

場所 | 学校法人 福山大学
社会連携推進センター 8F 802号室